

飯館村の食材の魅力が伝わる菓子づくりを
菓子工房Cocitto



素材にこだわり、フランス菓子の伝統的なレシピを大切にしながら、飯館らしい食材との組み合わせで新しい菓子を創り続けている高橋洋介さん(深谷)。令和7年4月にオープンした菓子工房Cocittoのオーナーパティシエです。

高橋さんは、飯館の食材に可能性を見出し、「美しい村で発見のある菓子をつくりたい」と地域おこし協力隊に志願。令和6年3月に着任し、およそ1年後に店舗をオープンしました。店名の「コチット」は古語の「東風(こち)」と「苞(つと)」を組み合わせた造語です。東風は東から吹く



製造補助のスタッフ雇用も新たな試み。

風、苞は、藁で包んだもの、このことで「土産」の意味があります。「コチット」は、食材の魅力や背景にある物語をぎゅっと詰め込んだ東北・福島発の贈り物です。高橋さんは、協力隊を卒業する令和9年以降を見据えて、製造の体制や販路をよりよい形で確立し、商品のラインアップをさらに充実させようと取り組んでいます。



新商品のキッシュ。パン商品も開発中。

この冬から、うすい百貨店(郡山市)の一角にてコチットの商品が販売されています。また2月には、いわき市の商業施設のイベントに出店し、1日でカヌレ100個を売り上げました。「飯館村の菓子店として、積極的に出店し、さまざまな発信を行っていききたいと思っています」。



菓子工房Cocitto
時 午前11時～午後6時
休 日曜日・月曜日
※出店等による臨時休業あり
草野字大師堂65
☎080-5416-3764



季節のフルーツをたっぷり仕込む「ガトー・イイタテ」(上の3点)など上質な焼き菓子の数々。香り大切にしているカヌレ(右下)は毎朝焼き上げるこだわりの逸品。



ECサイト



Instagram

小林金次郎作詞、石河清作曲の「夢大らかに」は、昭和41年に村政施行10周年を記念してつくられた飯館村民歌です。「山美わしく水清らかな その名も飯館 わがふるさとよ」で始まる歌詞と伸びやかなメロディーが、飯館村の情景や村民の心情を豊かに表現しています。

詩人の北原白秋に師事して作詞を学んだ小林さんは教師で、昭和39年から41年まで旧飯館村立白石小学校で校長を務めていました。作曲の石河さんは合唱王国福島の礎を築いた合唱指導者で、合唱曲を中心に作曲でも活躍しました。役場庁舎の前には、御影石の歌碑と、飯館ライオンズクラブが平成20年に寄贈した「心とませ地蔵」がある

「夢大らかに」 心をつなぐ村民歌

歴史の散歩道



役場庁舎前に建つ飯館村民歌の歌碑。手前左が村民歌を聴かせてくれる「心とませ地蔵」。



制定記念につくられたレコードのジャケット。B面には新村民音頭「飯館よいとこ」が収録されています。

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

おすすめ図書を紹介しします

「九十歳。何がめでたい」



佐藤愛子 著 / 小学館

映画にもなった佐藤愛子さんのエッセイ。佐藤愛子さんの生き方はとてもパワフル。思わずくすくすと笑ってしまう。読み終えた後は、気持ちすがすがしい!! 元気をもらえる1冊です。

本の貸し出し
ご利用ください

交流センター「ふれ愛館」では、さまざまなジャンルの書籍・雑誌・絵本の貸し出しを行っています。ぜひご家族でご利用ください。

問 交流センター「ふれ愛館」
☎0244(42)0072